

市民・まちづくり・広場

1960-70年代の革新自治体と都市・建築のレガシー

2019年6月29日[土]

14:00~17:00

建築会館会議室

東京都港区芝5-26-20

基調講演:

岡田一郎 [日本大学]

革新自治体とは何だったのか

鈴木伸治 [横浜市立大学]

都市計画から見た
横浜の飛鳥田市政とその後

コメンテーター:

岩崎駿介 [元横浜市役所]

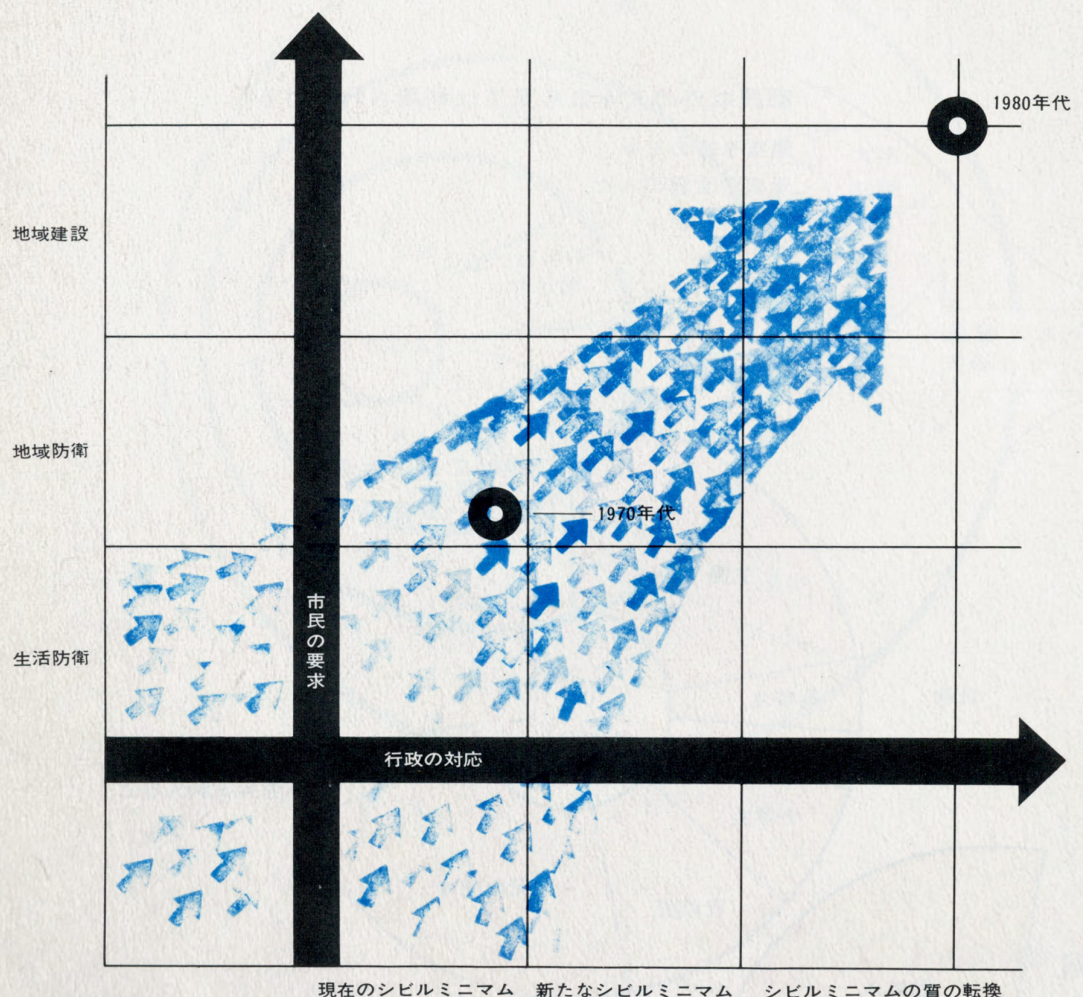
佐藤 滋 [早稲田大学]

近森高明 [慶應義塾大学]

司会進行:

中島直人 [東京大学]

1960~70年代にかけて、東京都や横浜市など革新系首長が率いる自治体が全国に登場した。これらは高度経済成長のひずみへの応答として誕生し、福祉、都市、環境、教育などの政策諸分野において、①市民参加を基本とした政治・行政手続きの民主的改革、②高度経済成長中心の政策から市民生活基準（シビル・ミニマム）に基づく市民福祉型への転換、③国家主導型の政治から市民・自治体主導型の政治への転換を進めたとされる。革新自治体の時代は1980年代には終焉を迎えたが、現代の都市づくりの根底にある概念や方法（例えば市民参加、都市デザイン、環境共生）の原点の多くがこの革新自治体の経験にあるのは確かである。人口減少、超少子高齢化、都市縮退など都市をめぐる状況が大きく変化した現在、こうした概念や方法の意義と有効性を根底から問い直し、必要に応じて再獲得していくプロセスが求められる。本シンポジウムでは、1960~70年代の革新自治体の都市政策に着目し、その都市・建築のレガシーについて、市民、まちづくり、広場をキーワードに議論し、一つの「戦後空間」を浮かび上がらせていく。



図版出典:

東京都企画調整局

『広場と青空の東京構想 試案1971』
(東京都、1971)

料金: 2,000円[一般] 1,500円[会員] 1,000円[学生] || 定員: 70名[事前申し込み制・先着順] ||
申込: <https://www.aij.or.jp/event/list.html> || 主催: 日本建築学会建築歴史・意匠委員会